

災害と向き合い利用者本位の 実験研究施設になる

先端的研究施設活用センター センター長
防災科学技術研究所 理事

安藤 慶明

防災科研は、「生きる、を支える科学技術」で、人の命と暮らしを支える目標を掲げています。その基盤として重要なものの一つが実験施設であり、防災科研には、世界で最先端を行く大型の実験研究施設があります。そこに人が集まり、わくわくするような科学研究が行われ、社会のための価値創造を可能とする、言わば研究開発のインフラです。

Eーディフェンス（兵庫県三木市）は地震災害に、雪氷防災実験棟（山形県新庄市）は雪氷災害に、大型降雨実験施設（茨城県つくば市）は水土砂災害に向き合う施設で、いずれも自然災害の脅威をそっくり再現する高い能力を有します。設置以来、地元自治体や地域の皆様のほか、産学官の多くの利用者のご理解とご支援をいただきながら、安全に運転をすることができ、優れた実験研究の成果を生み出すことができました。

これら3施設の機能を最大限に発揮させ、開かれた「共用」の実験研究施設として、その利活用を促進する

ことが、先端的研究施設活用センターの使命です。

本センターでは各施設を運転・管理する研究部門と一体になって、利用者本位を強く意識しながら公正と安全な利用を旨として、利活用の戦略を議論し、良いところは堅持しつつ、新たな課題にチャレンジしていきます。

振動実験で得た結果と多様なセンシングの手法で得たデータを統合するシミュレーションにより大規模空間や街・地域のスケールでの被害や影響の評価につなげる、大雨時の車両の自動走行の安全性や飛行するドローンの操作上の課題を検証する、豪雪時にも機能を健全に維持できる信号機の開発実証など、生活や暮らしを守る実験研究に取り組んでいます。また、レジリエントな社会には、防災のための行動やものづくりの標準化が有効であり、技術基準や規格・標準づくりにも産学官の関係者とともに取り組んでいきます。

安心して使える施設としてその利活用を広げるた

めに、課題一つ一つについて、ステークホルダーと共創するという視点で、ご支援とご協力を得る努力を惜みず、社会の期待に応えられる本物の実験研究施設になるために活動していきます。

